

Ⅲ 調査結果

① 第1回アンケートの結果

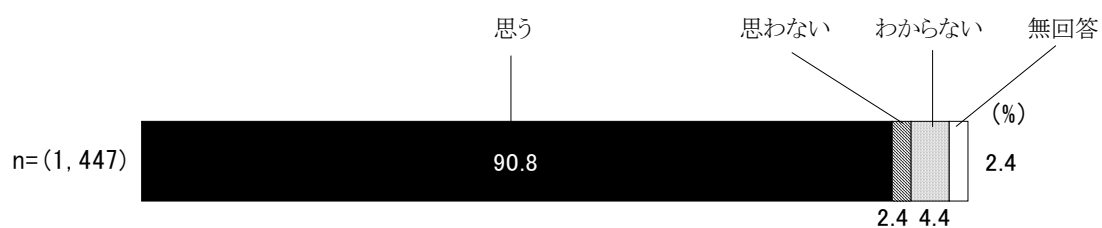
1 地球温暖化問題について

1-1 地球温暖化進行の実感度

◎ 「思う」が90.8%

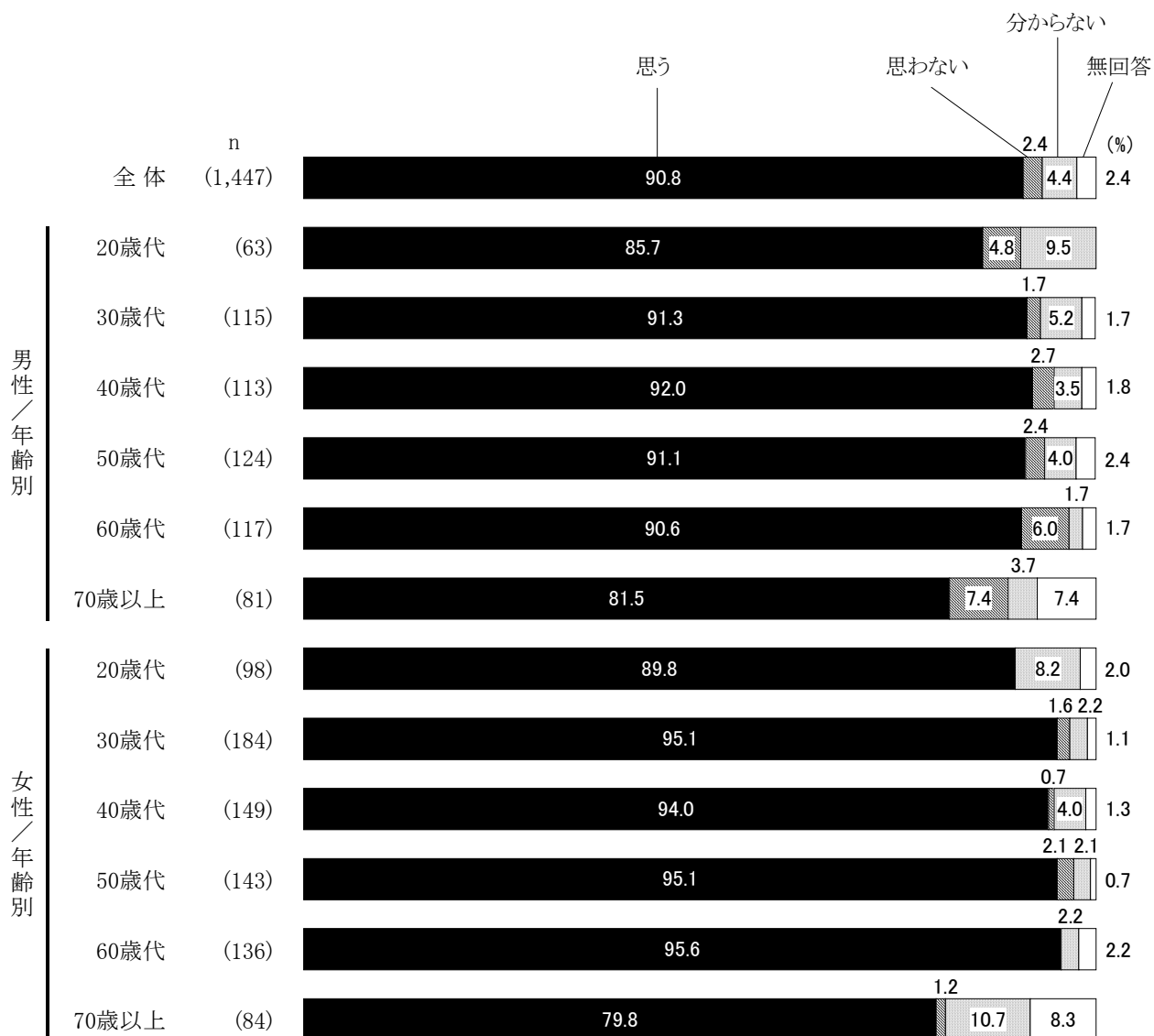
問1 現在、実感として地球温暖化が進んでいると思いますか。(○は1つ)

図表1-1 地球温暖化進行の実感度



地球温暖化が進んでいると「思う」人は90.8%、「思わない」人は2.4%で、実感度が非常に高くなっている。(図表1-1)

図表 1 - 2 地球温暖化進行の実感度 (性／年齢別)



性／年齢別では、いずれの年齢層でも「思う」は、割合が多くなっているが、男女ともに70歳以上が8割前後となっている。一方、「思わない」は、いずれの年齢層でも1割未満で少なくなっている。(図表1-2)

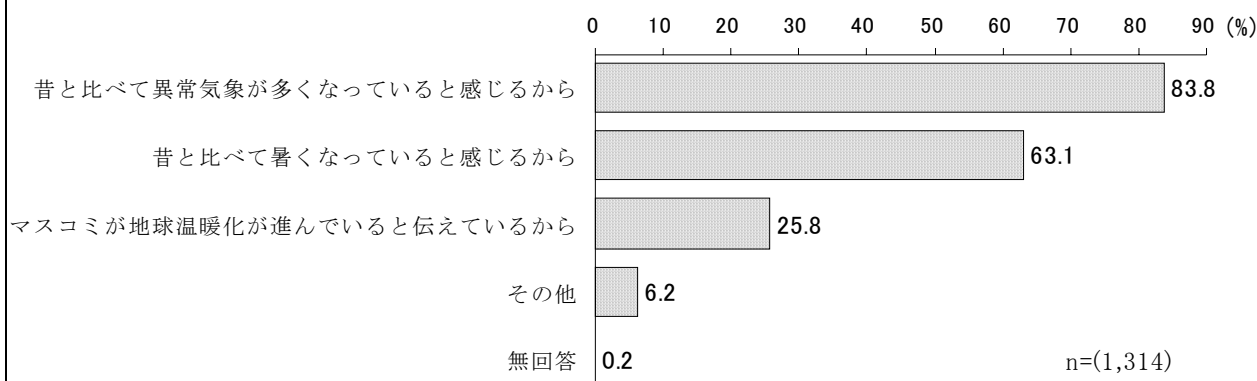
1-2 地球温暖化が進んでいると思う理由

◎ 「昔と比べて異常気象が多くなっていると感じるから」が83.8%

(問1で、現在、実感として地球温暖化が進んでいると「1. 思う」と答えた方にうかがいます。)

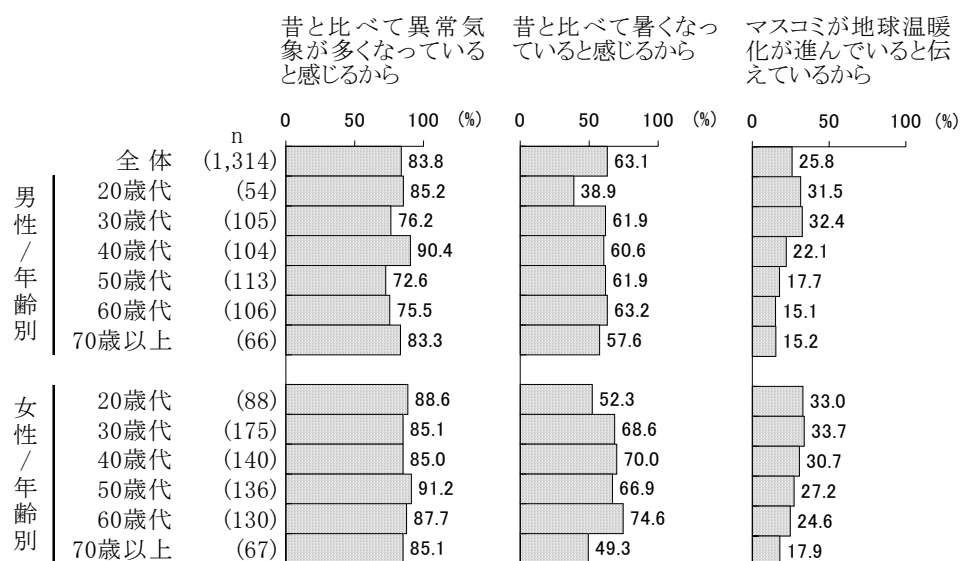
問1-1 地球温暖化が進んでいると思う理由としてご意見に近いのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-3 地球温暖化が進んでいると思う理由



地球温暖化が進んでいると思う理由は、「昔と比べて異常気象が多くなっていると感じるから」が83.8%で最も多くなっている。以下「昔と比べて暑くなっていると感じるから」(63.1%)、「マスコミが地球温暖化が進んでいると伝えているから」(25.8%)と続いている。(図表1-3)

図表1-4 地球温暖化が進んでいると思う理由 (性/年齢別)



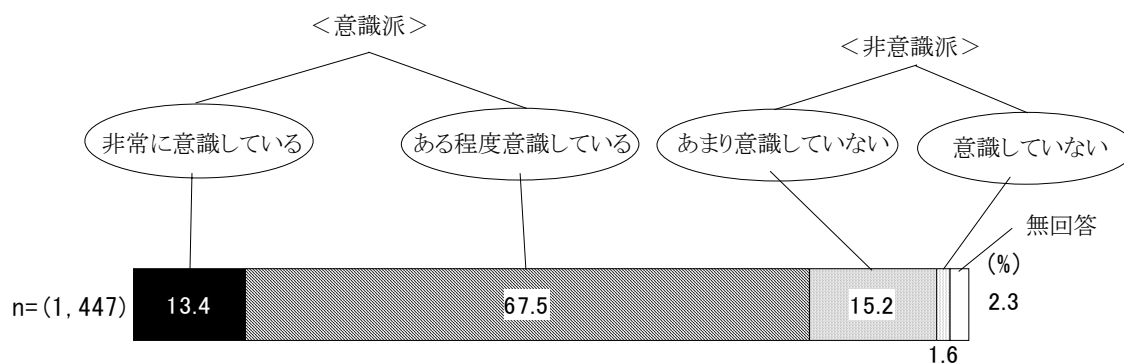
性/年齢別では、「昔と比べて異常気象が多くなっていると感じるから」は、どの年代も数値が高く、特に男性の40歳代、女性の50歳代が約9割となっている。「昔と比べて暑くなっていると感じるから」の数値をみると、男女とも20歳代は気温の変化を実感している割合が少ない。(図表1-4)

1－3 地球温暖化防止の意識状況

◎ <意識派>は80.9%

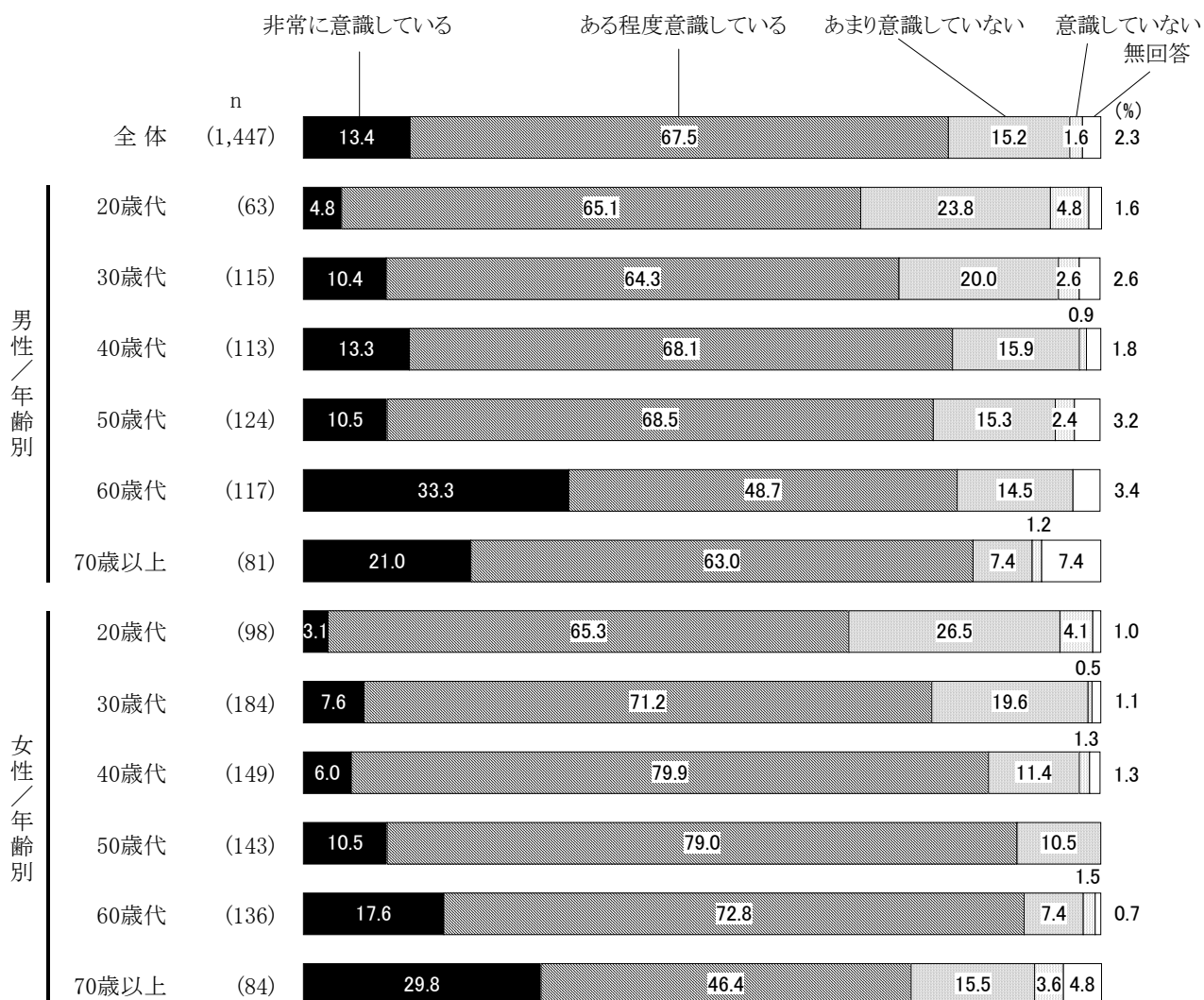
問2 日常生活の中で、地球温暖化防止について意識していますか。(○は1つ)

図表1－5 地球温暖化防止の意識状況



地球温暖化防止の意識状況は、「非常に意識している」(13.4%)と「ある程度意識している」(67.5%)をあわせた<意識派>は80.9%、「あまり意識していない」(15.2%)と「意識していない」(1.6%)をあわせた<非意識派>は16.8%となっている。(図表1－5)

図表 1－6 地球温暖化防止の意識状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、「非常に意識している」は、男性の60歳代が3割前半、女性の70歳以上が約3割で多くなっている。一方、「意識していない」は、いずれの年齢層でも1割未満で少なくなっている。(図表1－6)

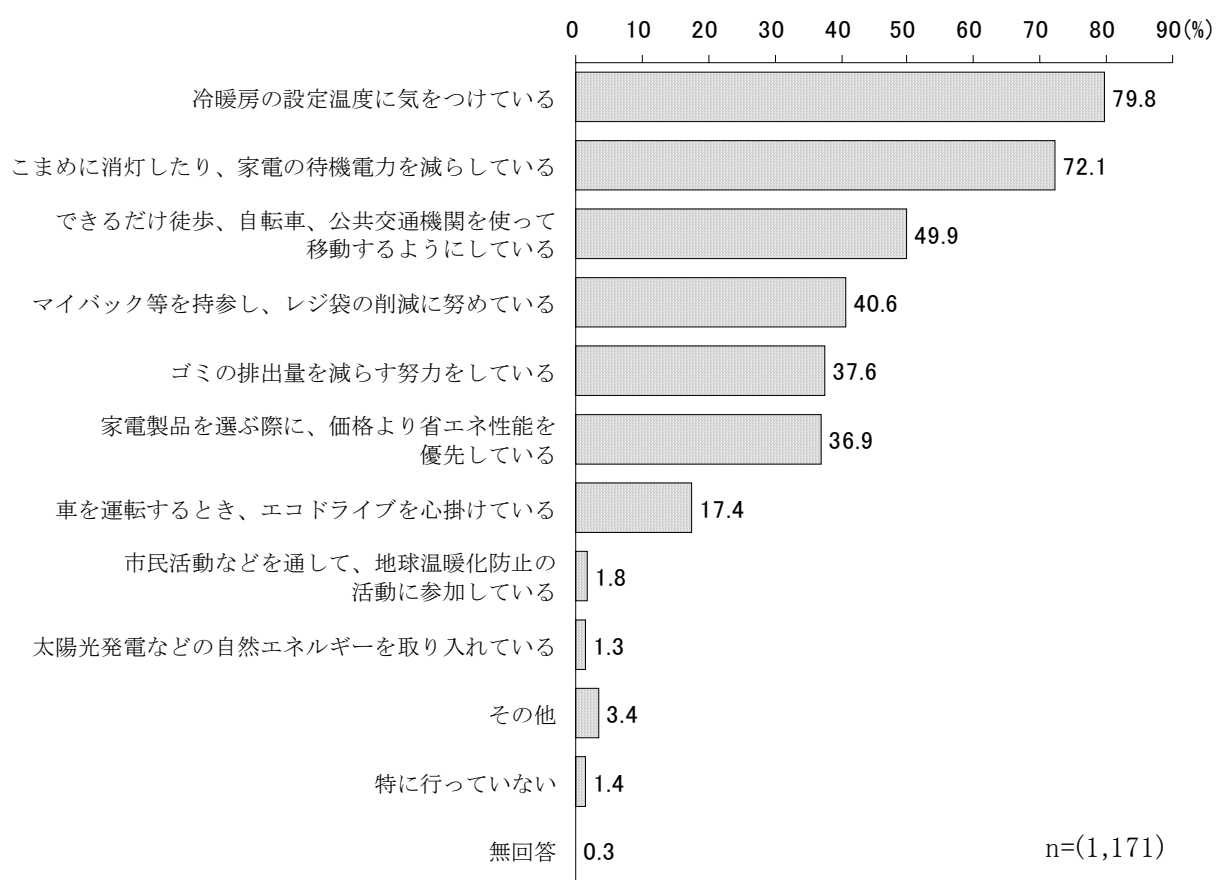
1-4 地球温暖化防止のためにやっていること

- ◎ 「冷暖房の設定温度に気をつけている」(79.8%)、「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らしている」(72.1%) が7割以上

(問2で、日常生活の中で、地球温暖化防止について「1. 非常に意識している」「2. ある程度意識している」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

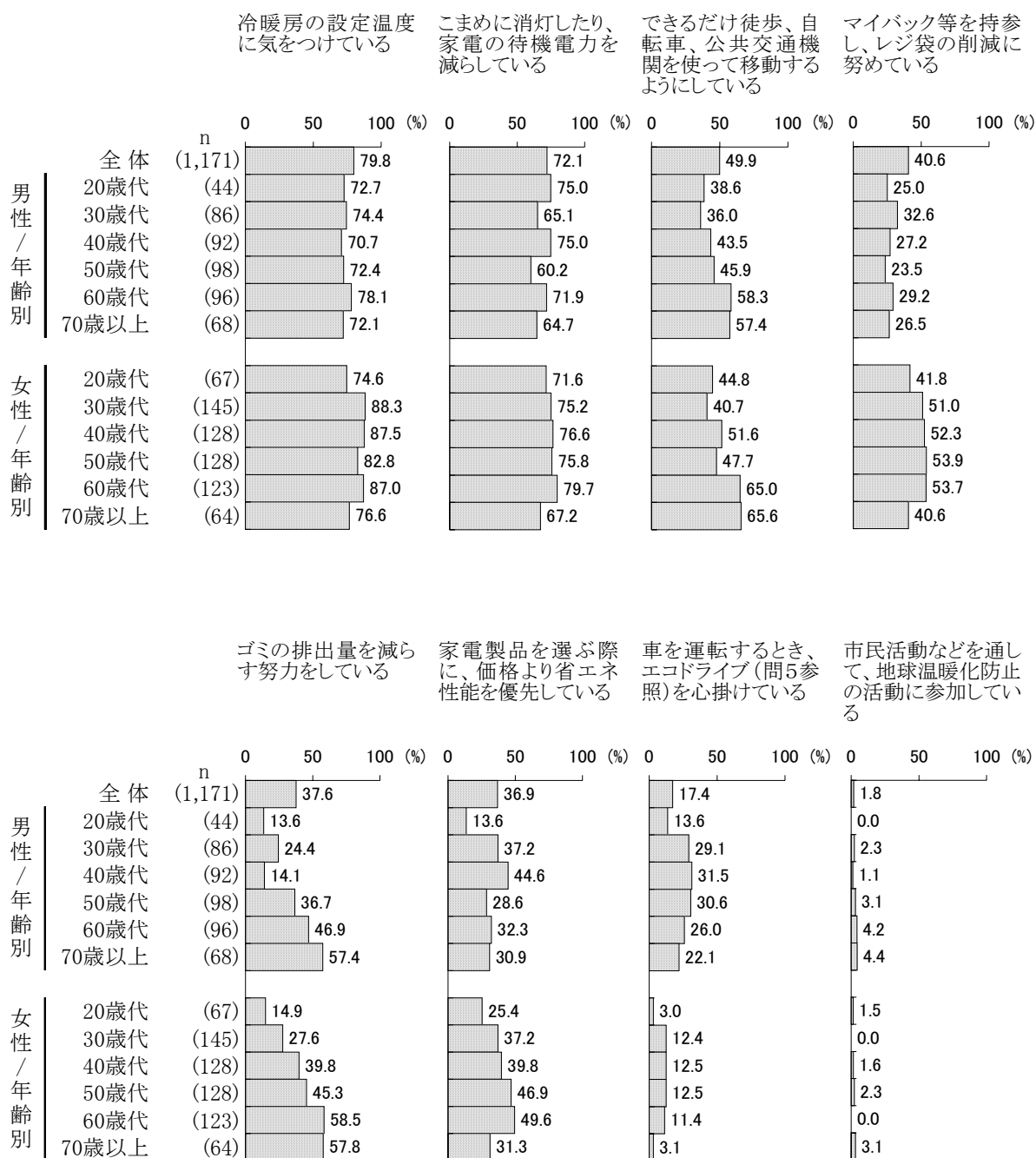
問2-1 地球温暖化防止のために、日常生活においてどのようなことを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表1-7 地球温暖化防止のためにやっていること



地球温暖化防止のためにやっていることは、「冷暖房の設定温度に気をつけている」が 79.8%で最も多くなっている。以下「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らしている」(72.1%)、「できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を使って移動するようにしている」(49.9%)、「マイバック等を持参し、レジ袋の削減に努めている」(40.6%)、「ゴミの排出量を減らす努力をしている」(37.6%) と続いている。(図表1-7)

図表 1－8 地球温暖化防止のために行っていること (性／年齢別、上位 8 項目)



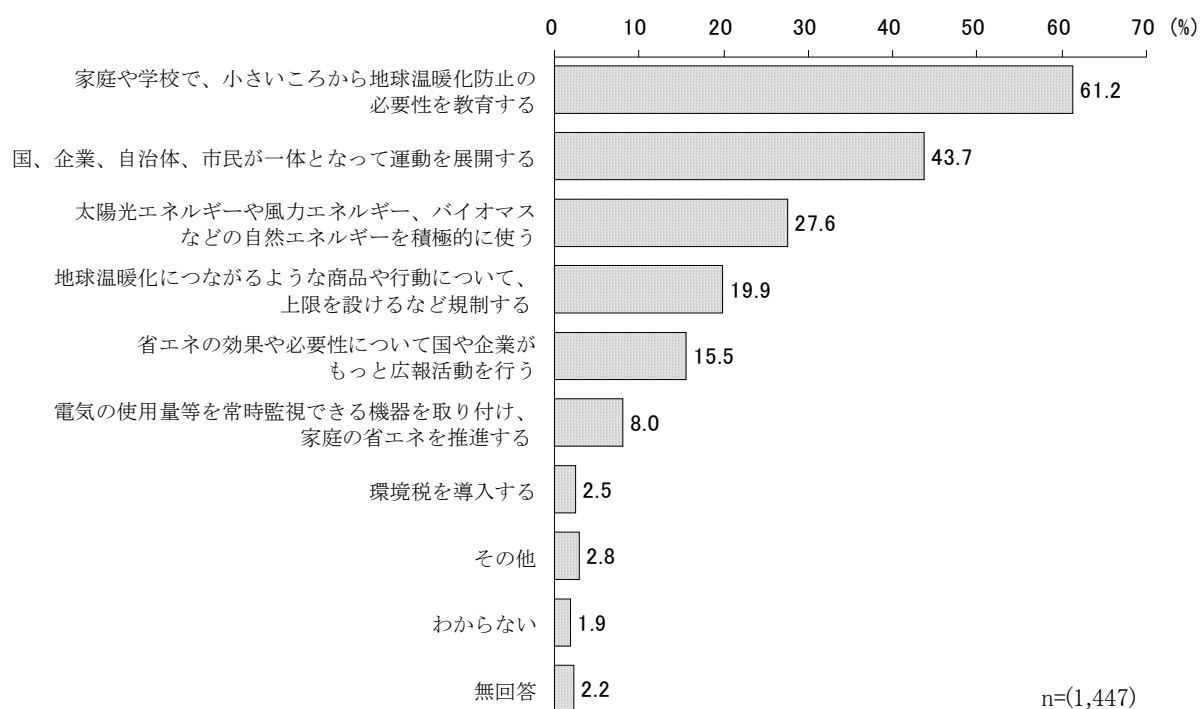
性／年齢別では、「冷暖房の設定温度に気をつけている」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の 30 歳代～60 歳代が 8 割台となっている。「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らしている」は、男女ともにいずれの年齢層でも 6 割～7 割台となっている。「できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を使って移動するようにしている」は、男性の 60 歳代以上が 5 割台後半、女性の 60 歳代以上が 6 割台半ばで多くなっている。(図表 1－8)

1－5 地球温暖化防止のための行動を普及させる有効手段

- ◎ 「家庭や学校で、小さいころから地球温暖化防止の必要性を教育する」が61.2%で最も多い

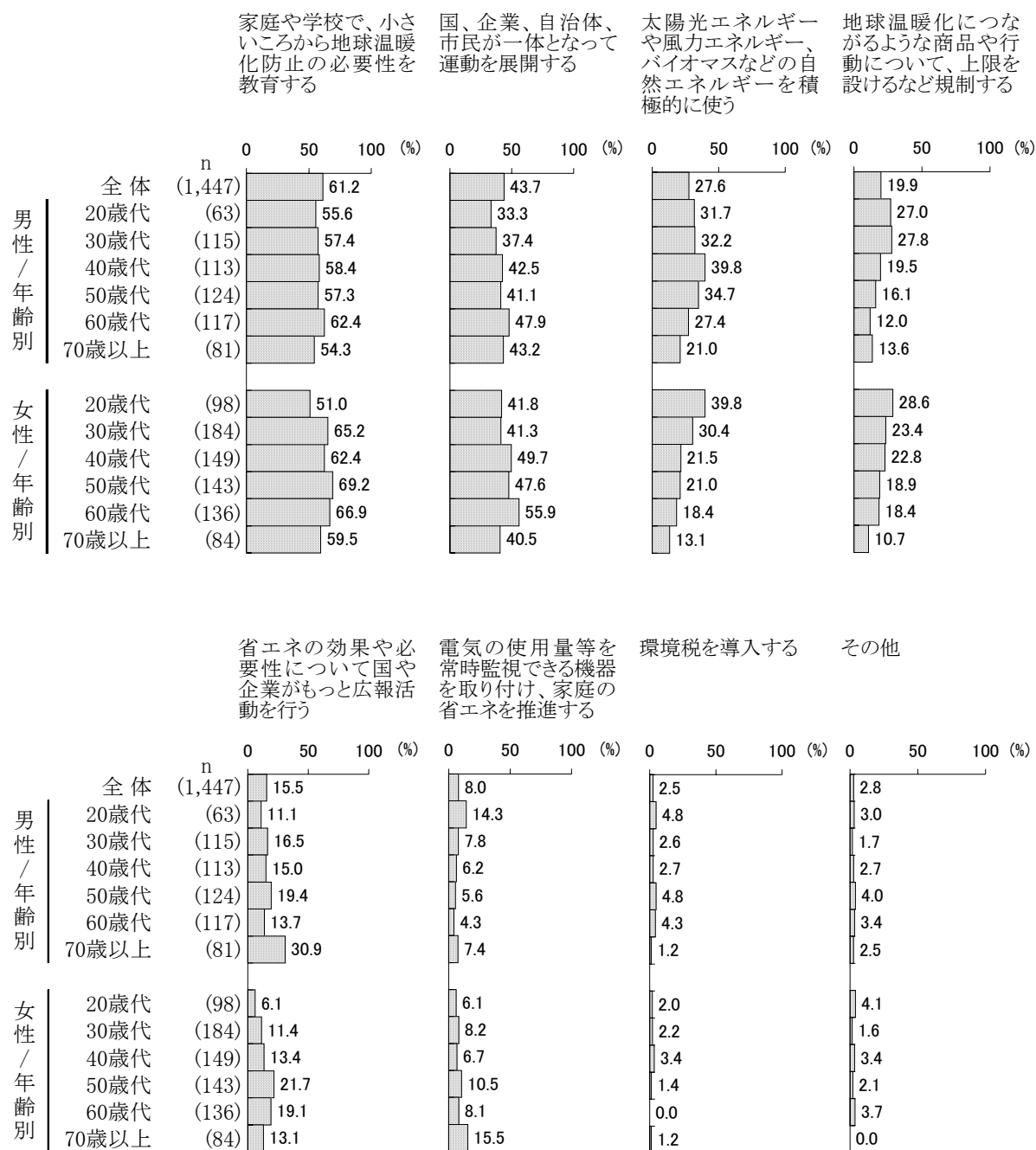
問3 地球温暖化防止に配慮した行動を日常生活に普及させるためには、どのような手段が有効だと思いますか。(〇は2つまで)

図表 1－9 地球温暖化防止のための行動を普及させる有効手段



地球温暖化防止のための行動を普及させる手段は、「家庭や学校で、小さいころから地球温暖化防止の必要性を教育する」が61.2%で最も多くなっている。以下「国、企業、自治体、市民が一体となって運動を展開する」(43.7%)、「太陽光エネルギーや風力エネルギー、バイオマスなどの自然エネルギーを積極的に使う」(27.6%)、「地球温暖化につながるような商品や行動について、上限を設けるなど規制する」(19.9%)、「省エネの効果や必要性について国や企業がもっと広報活動を行う」(15.5%)と続いている。(図表 1－9)

図表 1-10 地球温暖化防止のための行動を普及させる有効手段 (性／年齢別、上位 8 項目)



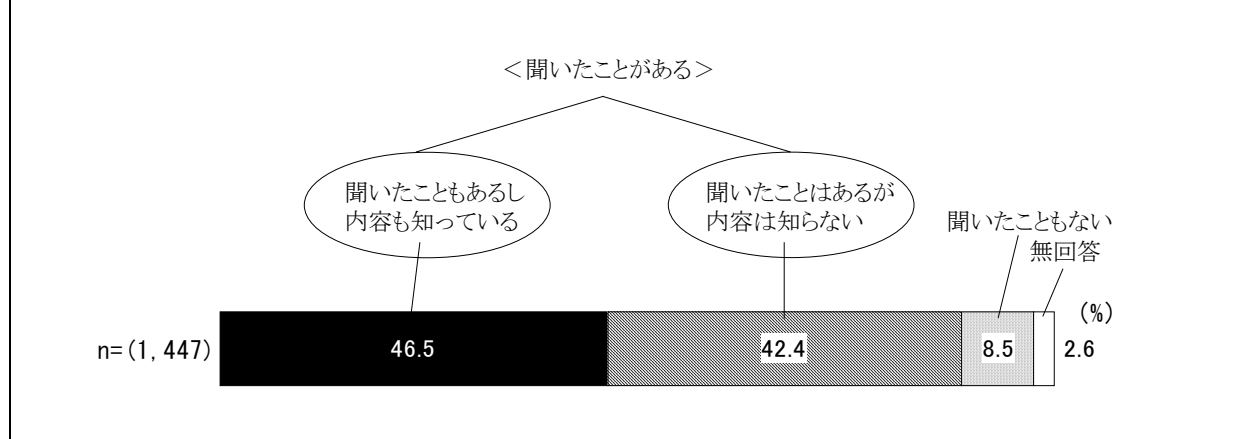
性／年齢別では、「家庭や学校で、小さいころから地球温暖化防止の必要性を教育する」は、男女ともに5割～6割台で多くなっている。「国、企業、自治体、市民が一体となって運動を展開する」は、男性の20歳代～30歳代が3割台前半～3割台後半で少なく、女性の60歳代が5割台半ばで最も多くなっている。「太陽光エネルギーや風力エネルギー、バイオマスなどの自然エネルギーを積極的に使う」は、男性では、40歳代が約4割で多く、それ以降の年代は、減少傾向となっている。女性では、年齢が高くなるにつれ、割合が少なくなる傾向となっている（図表1-10）

1-6 エコドライブの認知状況

◎ <聞いたことがある>は88.9%

問4 エコドライブという言葉を知ったことはありますか。また、エコドライブとはどのようなものか知っていますか。(○は1つ)

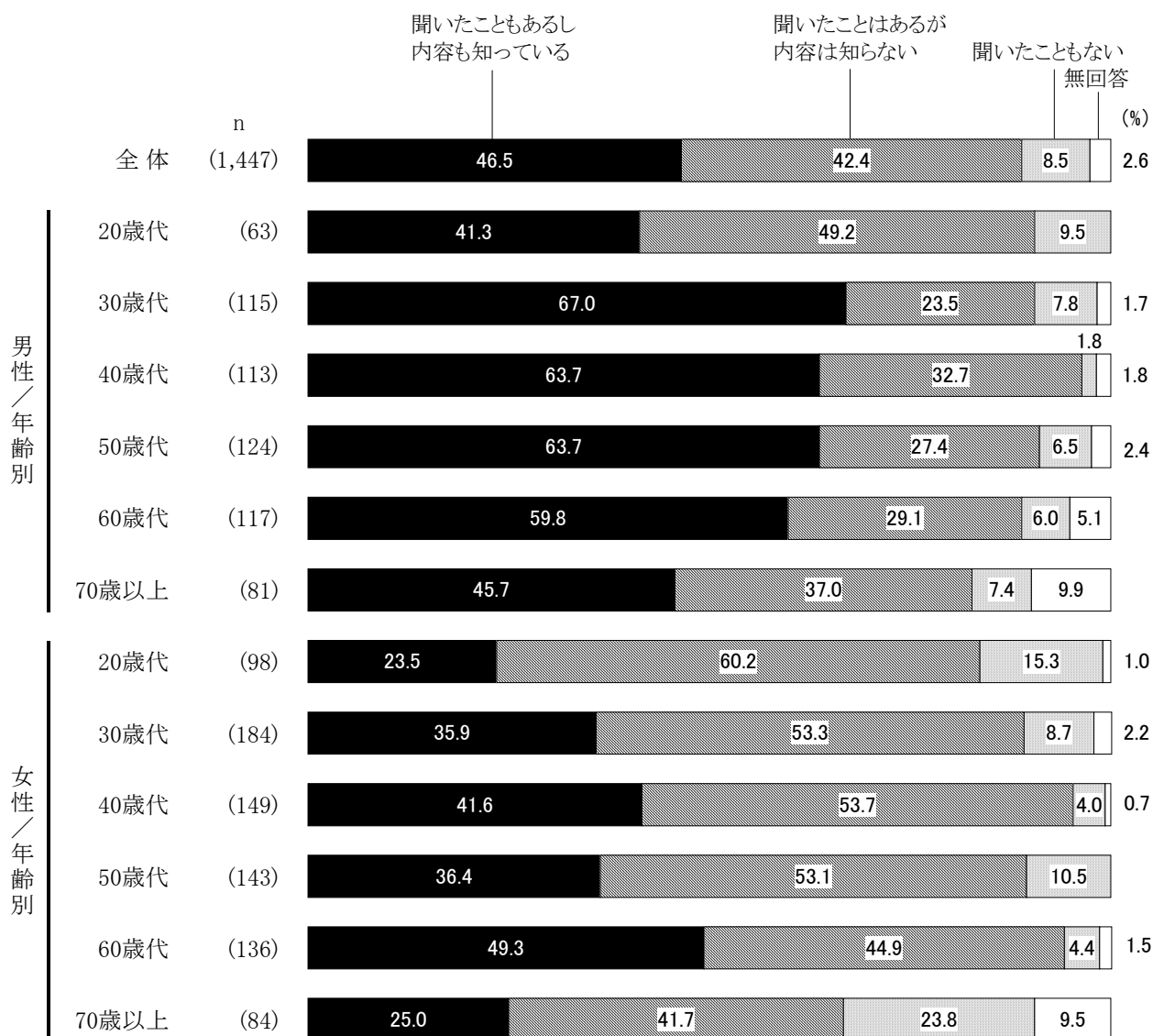
図表 1-11 エコドライブの認知状況



エコドライブという言葉を知ったことを「聞いたこともあるし内容も知っている」(46.5%)と「聞いたことはあるが内容は知らない」(42.4%)をあわせた<聞いたことがある>は88.9%となっている。一方、「聞いたこともない」は8.5%で少なくなっている。(図表 1-11)

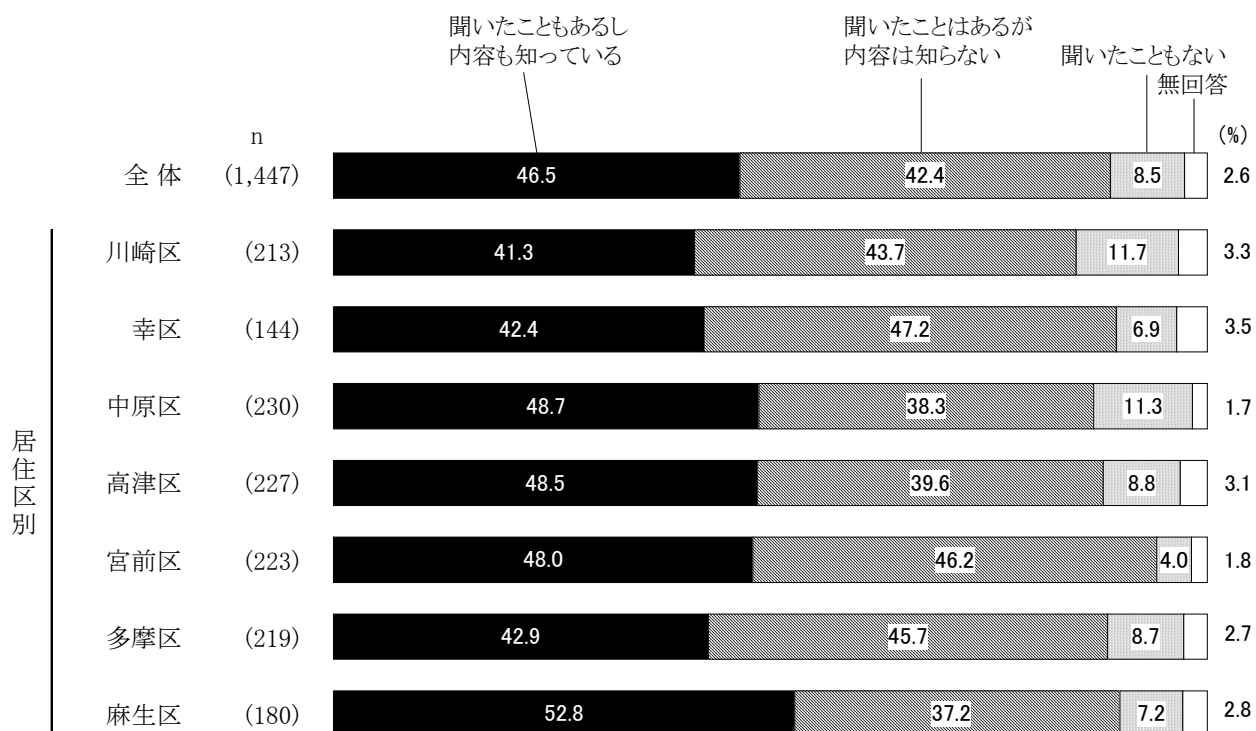
問2の温暖化防止の意識状況で「非常に意識している」と回答した人は、63.4%が「聞いたこともあるし内容も知っている」と回答している。

図表 1-12 エコドライブの認知状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、「聞いたこともあるし内容も知っている」は、全体的に女性より男性の方が多く、特に男性の30歳代～50歳代が6割台となっている。一方、女性の20歳代と70歳以上は2割台前半～2割台半ばと少なくなっている。(図表 1-12)

図表 1-13 エコドライブの認知状況 (居住区別)



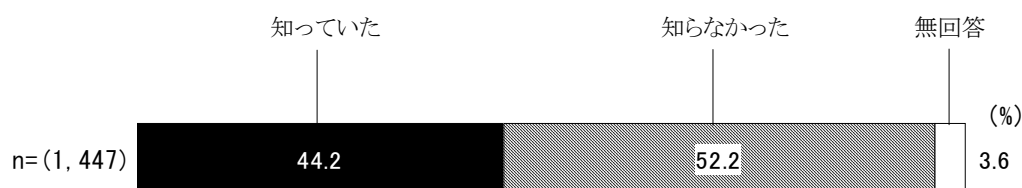
居住区別では、＜聞いたことがある＞は、宮前区が9割台半ばとなっている。(図表 1-13)

1-7 エコドライブの効果の認知状況

◎ 「知っていた」は44.2%

問5 エコドライブとは環境にやさしい運転方法のことです。下記のようなエコドライブを実践することで、10%前後の燃費の改善を期待できることを知っていましたか。
(○は1つ)

図表 1-14 エコドライブの効果の認知状況

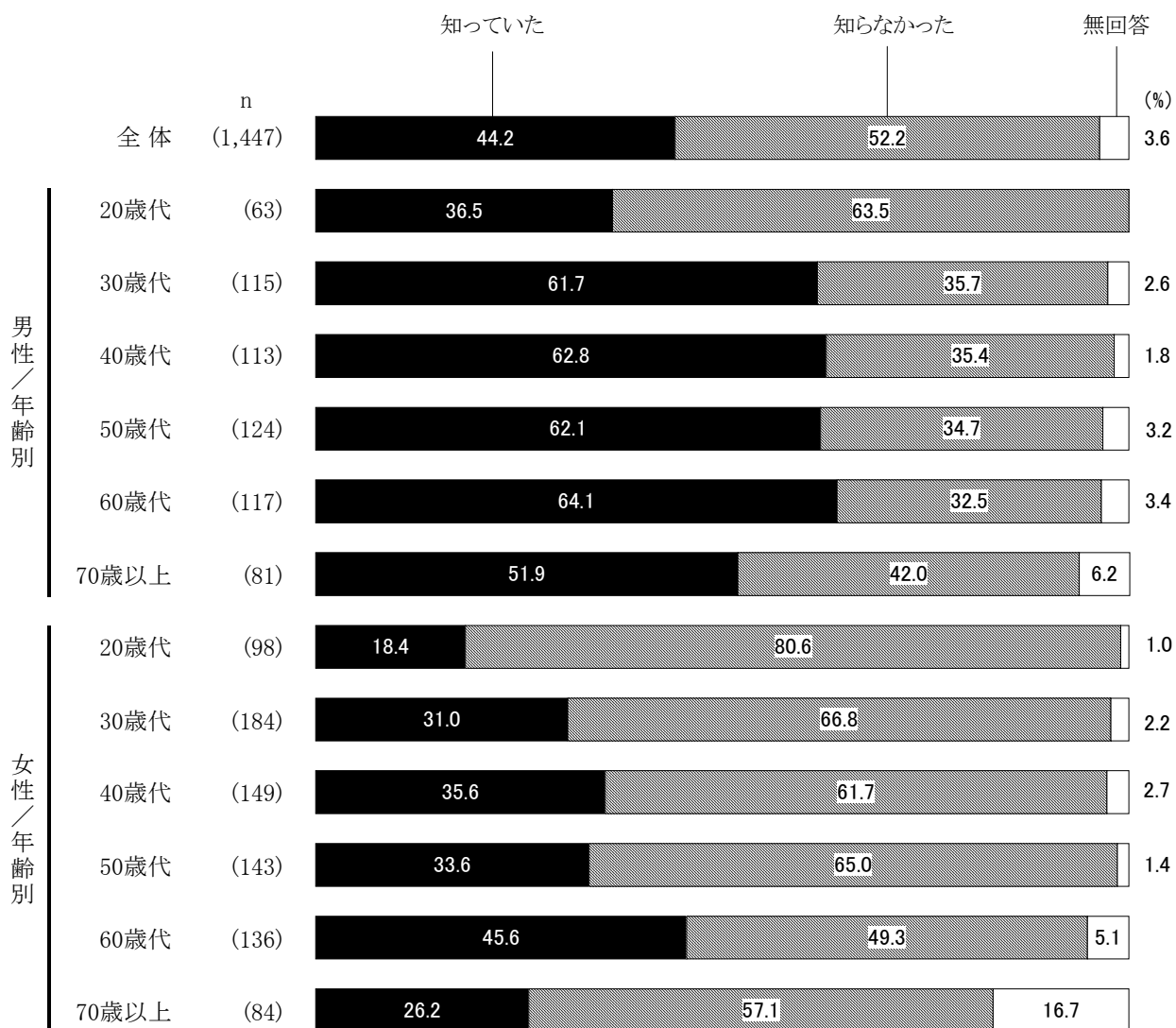


エコドライブの効果を「知っていた」人は44.2%、「知らなかった」人は52.2%で、知らなかった人の方がやや多くなっている。(図表1-14)

問2の温暖化防止の意識状況で「非常に意識している」と回答した人は、64.9%が「知っていた」と回答している。

- ◆ エコドライブとは・・・
- ・ やさしい発進を心がけましょう
 - ・ 車間距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行に努めましょう
 - ・ 車内を冷やし過ぎないようにしましょう
 - ・ 無用なアイドリングはやめましょう
 - ・ タイヤの空気圧をこまめにチェックしましょう
 - ・ 不要な荷物は降ろしましょう

図表 1-15 エコドライブの効果の認知状況 (性/年齢別)



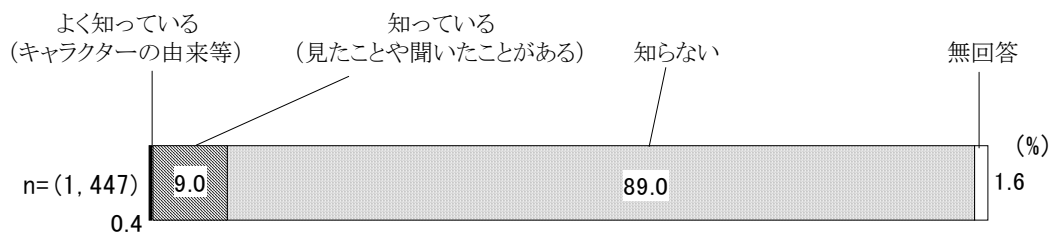
性/年齢別では、「知っていた」は、全体的に女性より男性の方が多く、特に男性の30歳代～60歳代が6割を超えて多くなっている。一方、「知らなかった」は、男女ともに20歳代が多く、特に女性の20歳代が約8割となっている。(図表1-15)

1-8 「エコちゃんず」の認知状況

◎ 「よく知っている」は0.4%、「知っている」は9.0%で認知度は低い

問6 かわさき地球温暖化対策推進協議会の温暖化対策のキャラクター「エコちゃんず」を知っていますか。(〇は1つ)

図表1-16 「エコちゃんず」の認知状況



エコちゃんずを「よく知っている (キャラクターの由来等)」は0.4%、「知っている (見たことや聞いたことがある)」は9.0%、「知らない」は89.0%で認知度は低くなっている。(図表1-16)



「エコちゃんず」とは・・・

- ◆かわさき地球温暖化対策推進協議会のキャラクターです。
 - ◆左側は「エコ・ろじいちゃん」右側は「エコ・のみいちゃん」。
- 環境と経済が仲良くすることで温暖化を防止していくことを表しています。

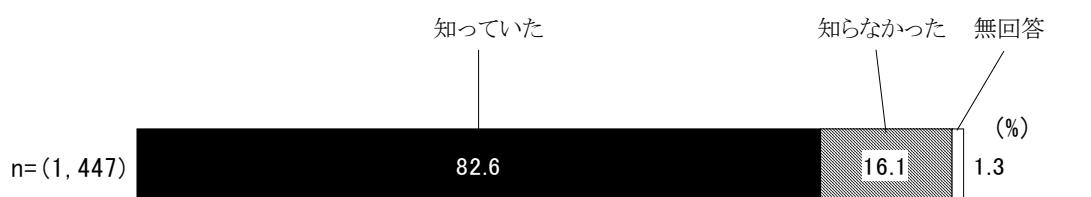
2 ごみの収集・減量・リサイクルについて

2-1 普通ごみ収集日変更の事前認知状況

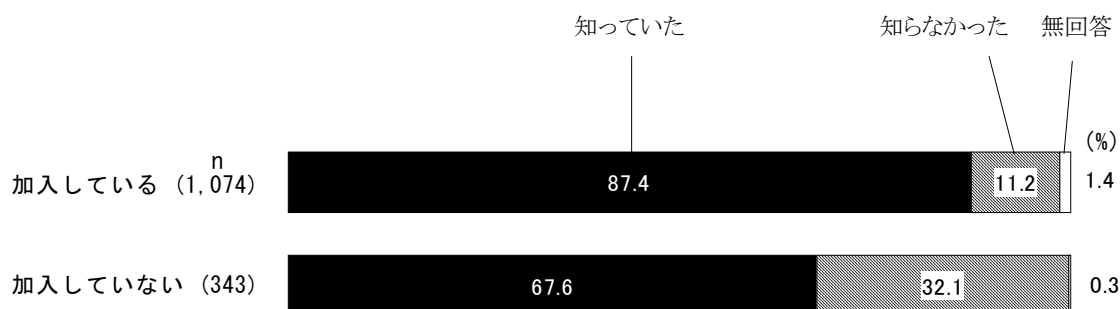
◎ 「知っていた」は82.6%

問7 平成19年4月から、普通ごみの収集日が週4日から週3日に変わることを事前に知っていましたか。(○は1つ)

図表2-1 普通ごみ収集日変更の事前認知状況



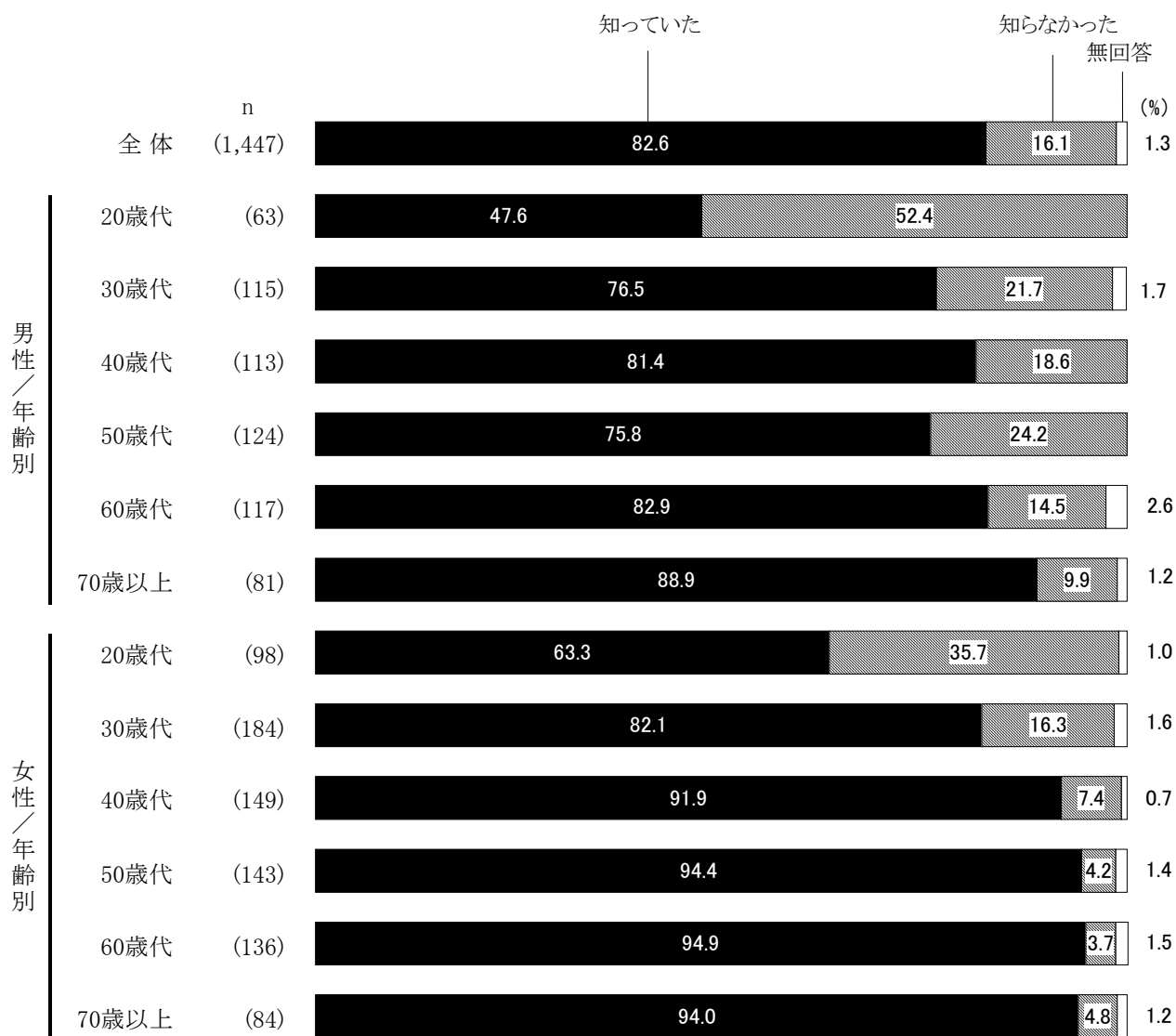
【町内会、自治会の加入状況別】



普通ごみ収集日変更を事前に「知っていた」人は82.6%、「知らなかった」人は16.1%で、多くの人が事前に知っていた。(図表2-1)

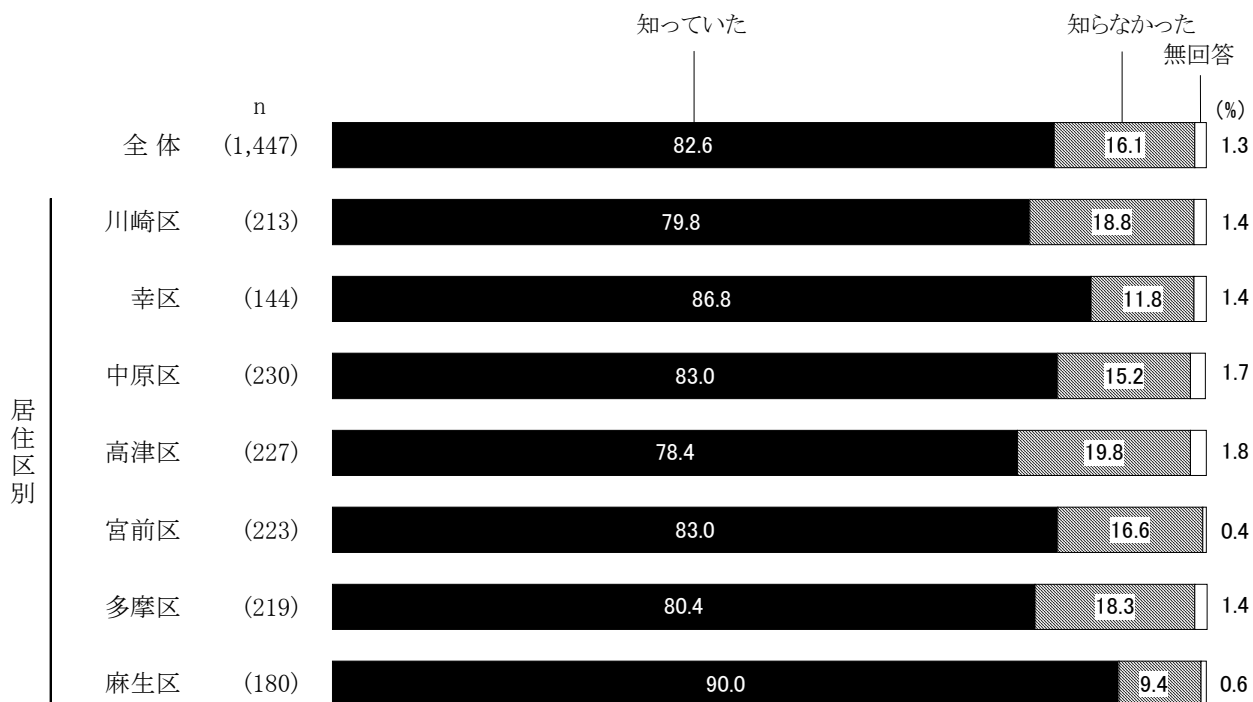
後述の問24 町内会、自治会の加入状況別でみると「加入している」人は87.4%が「知っていた」と回答しており、「加入していない」人の場合は67.6%となっている。

図表 2－2 普通ごみ収集日変更の事前認知状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、「知っていた」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の40歳代以上が9割台となっている。「知らなかった」は男性では、20歳代が5割台前半、女性では、20歳代が3割台半ばで他の年齢層と比べて若年層で多くなっている。(図表2－2)

図表 2－3 普通ごみ収集日変更の事前認知状況 (居住区別)



居住区別では、「知っていた」が各区とも概ね8割程度で、麻生区が9割と最も多くなっている。
(図表 2－3)

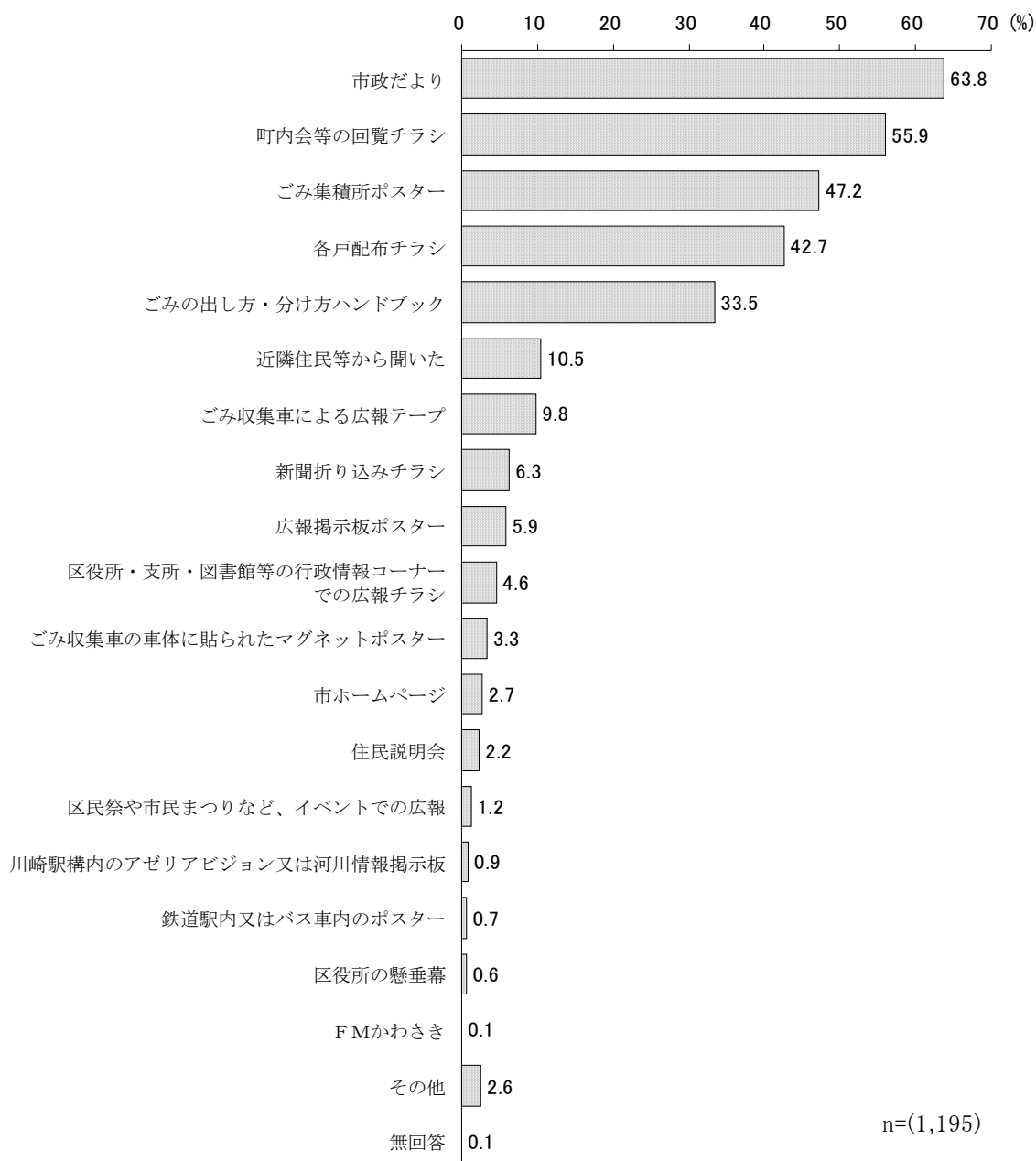
2-2 普通ごみ収集日変更の事前情報の取得先

◎ 「市政だより」が63.8%、「町内会等の回覧チラシ」は55.9%

(問7で、普通ごみの収集日が週4日から週3日に変わることを事前に「1. 知っていた」と答えた方にうかがいます。)

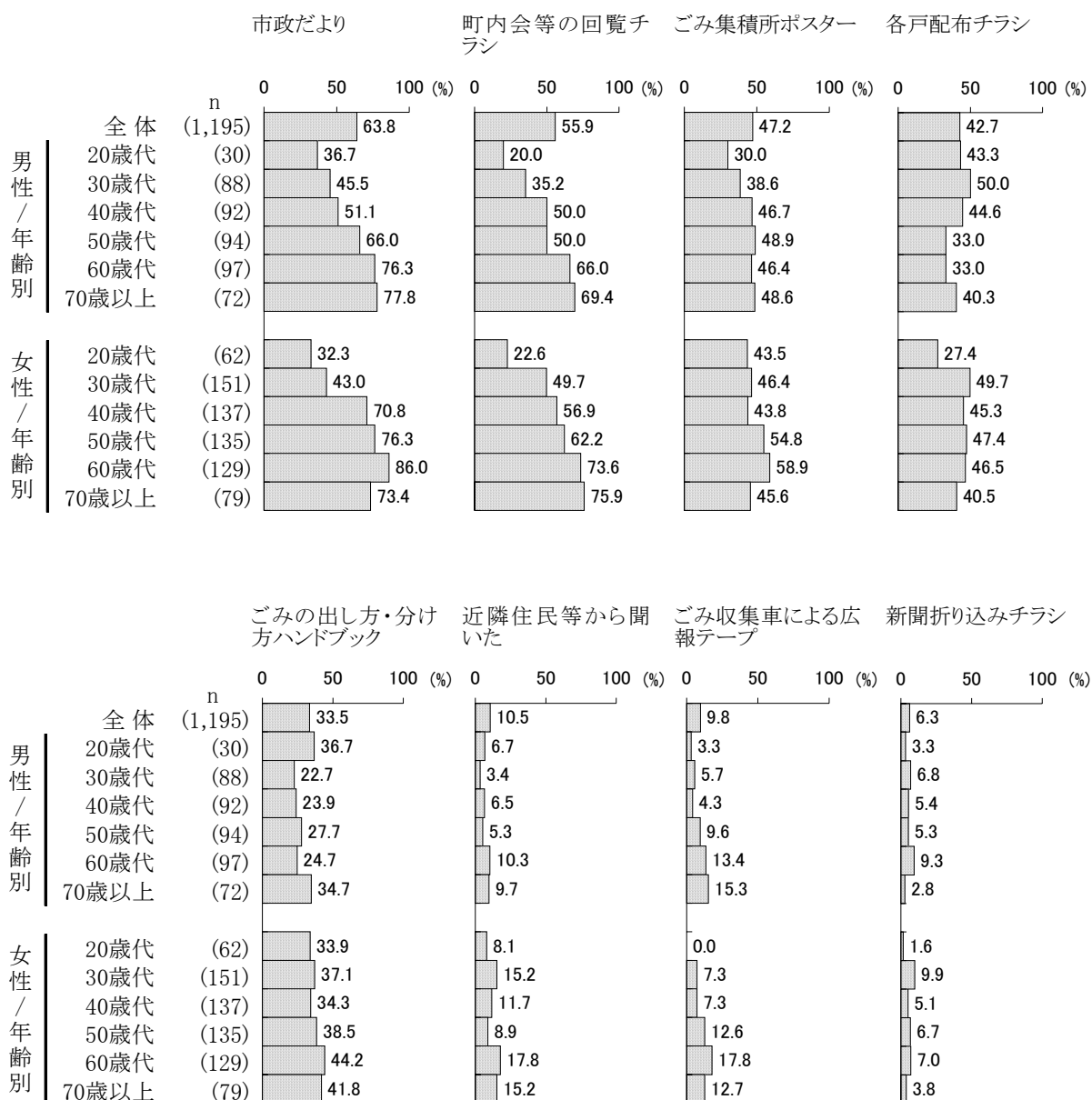
問7-1 収集日が変わることを何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-4 普通ごみ収集日変更の事前情報の取得先



普通ごみ収集日変更の事前情報の取得先は、「市政だより」が63.8%で最も多くなっている。以下「町内会等の回覧チラシ」(55.9%)、「ごみ集積所ポスター」(47.2%)、「各戸配布チラシ」(42.7%)、「ごみの出し方・分け方ハンドブック」(33.5%)、「近隣住民等から聞いた」(10.5%)と続いている。(図表2-4)

図表 2-5 普通ごみ収集日変更の事前情報の取得先 (性/年齢別、上位8項目)



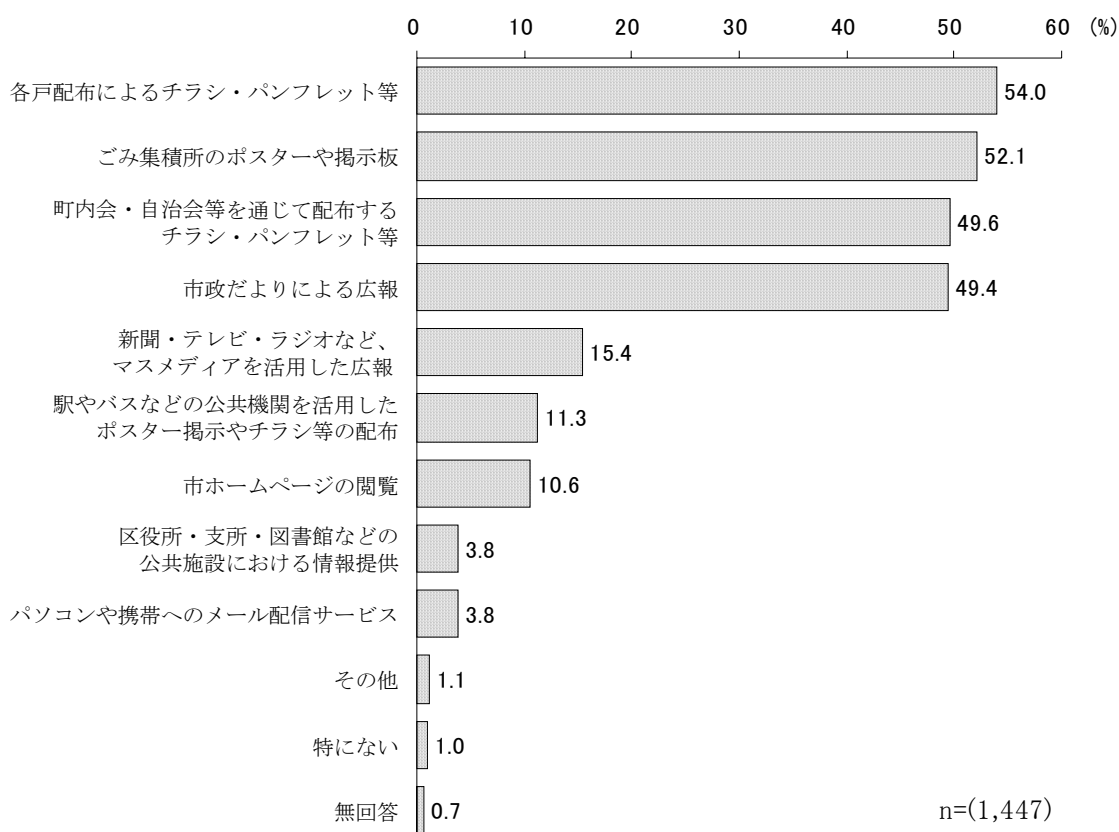
性/年齢別では、「市政だより」は、男性の60歳代以上、女性の40歳代～70歳以上が多くなっており、特に女性の60歳代が8割台半ばとなっている。「町内会等の回覧チラシ」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、男女ともに20歳代と70歳以上では5割前後の差があった。他の年代と比べ総じて数値の低い20歳代の中で男性は「各戸配布チラシ」、女性では「ごみ集積所ポスター」の数値が高い。(図表2-5)

2-3 ごみの出し方や資源物の分け方等に関する情報の入手方法（媒体）の希望

◎ 「各戸配布によるチラシ・パンフレット等」が54.0%で最も多い

問8 ごみの出し方や資源物の分け方等に関する情報について、今後、どのような方法（媒体）で入手できたらよいと思いますか。（〇は3つまで）

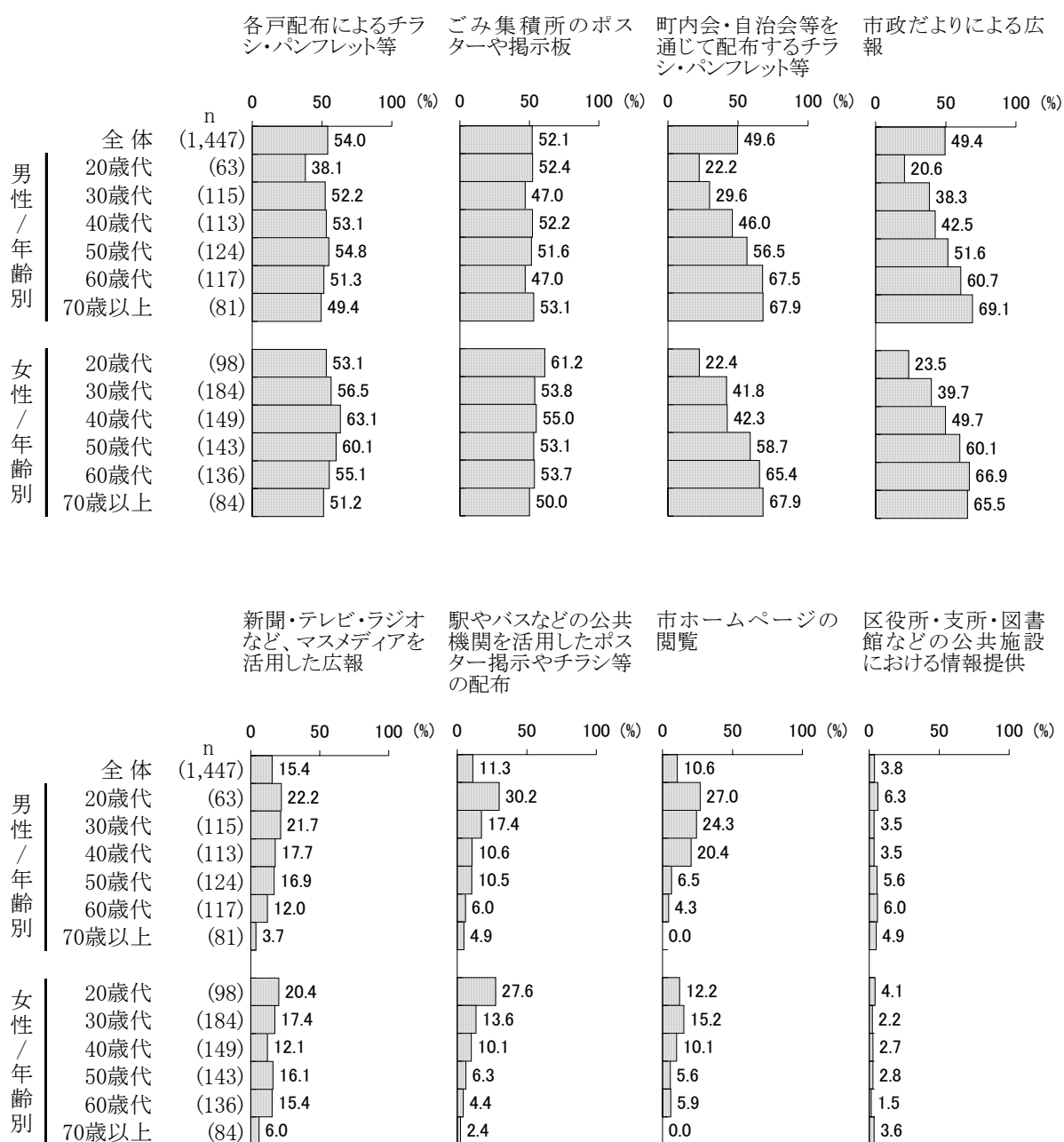
図表2-6 ごみの出し方や資源物の分け方等に関する情報の入手方法（媒体）の希望



ごみの出し方や資源物の分け方等に関する情報の入手方法（媒体）の希望は、「各戸配布によるチラシ・パンフレット等」が54.0%で最も多くなっている。以下「ごみ集積所のポスターや掲示板」（52.1%）、「町内会・自治会等を通じて配布するチラシ・パンフレット等」（49.6%）、「市政だよりによる広報」（49.4%）と続いている。（図表2-6）

図表 2-7 ごみの出し方や資源物の分け方等に関する情報の入手方法（媒体）の希望

(性／年齢別、上位 8 項目)



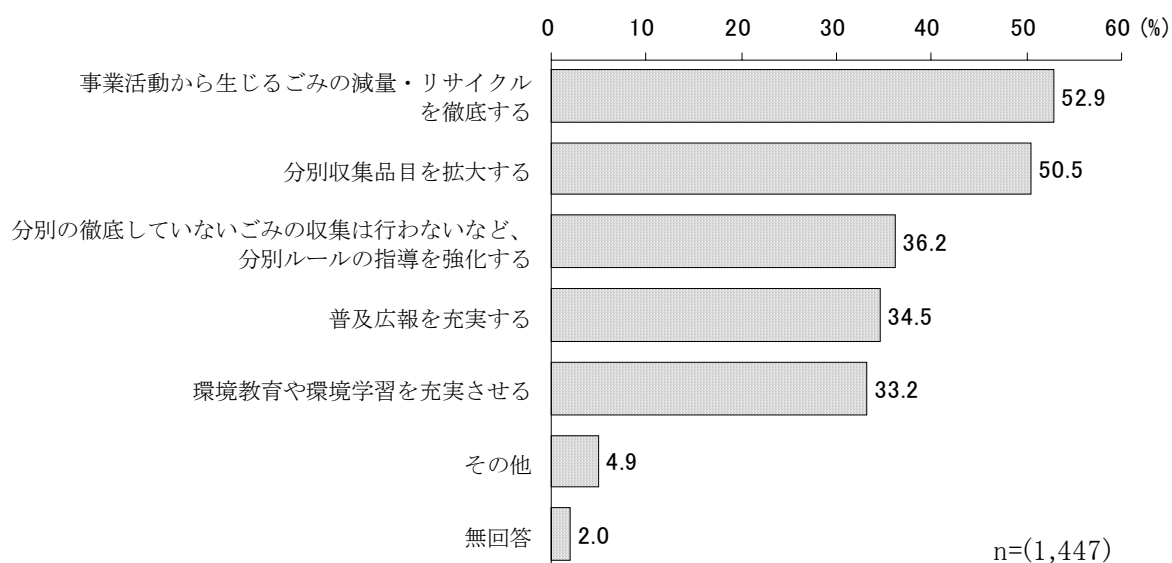
性／年齢別では、「各戸配布によるチラシ・パンフレット等」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の 40 歳代～50 歳代が 6 割台前半となっている。「ごみ集積所のポスターや掲示板」は、女性の 20 歳代が 6 割台前半と多くなっている。「町内会・自治会等を通じて配布するチラシ・パンフレット等」、「市政だよりによる広報」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、男性の 60 歳代以上が 6 割台、女性の 50 歳代以上が 5 割台後半～6 割台後半となっている。(図表 2-7)

2-4 ごみの減量とリサイクルを進めていくために市が取組むべきこと

- ◎ 「事業活動から生じるごみの減量・リサイクルを徹底する」が 52.9%、「分別収集品目を拡大する」が 50.5%

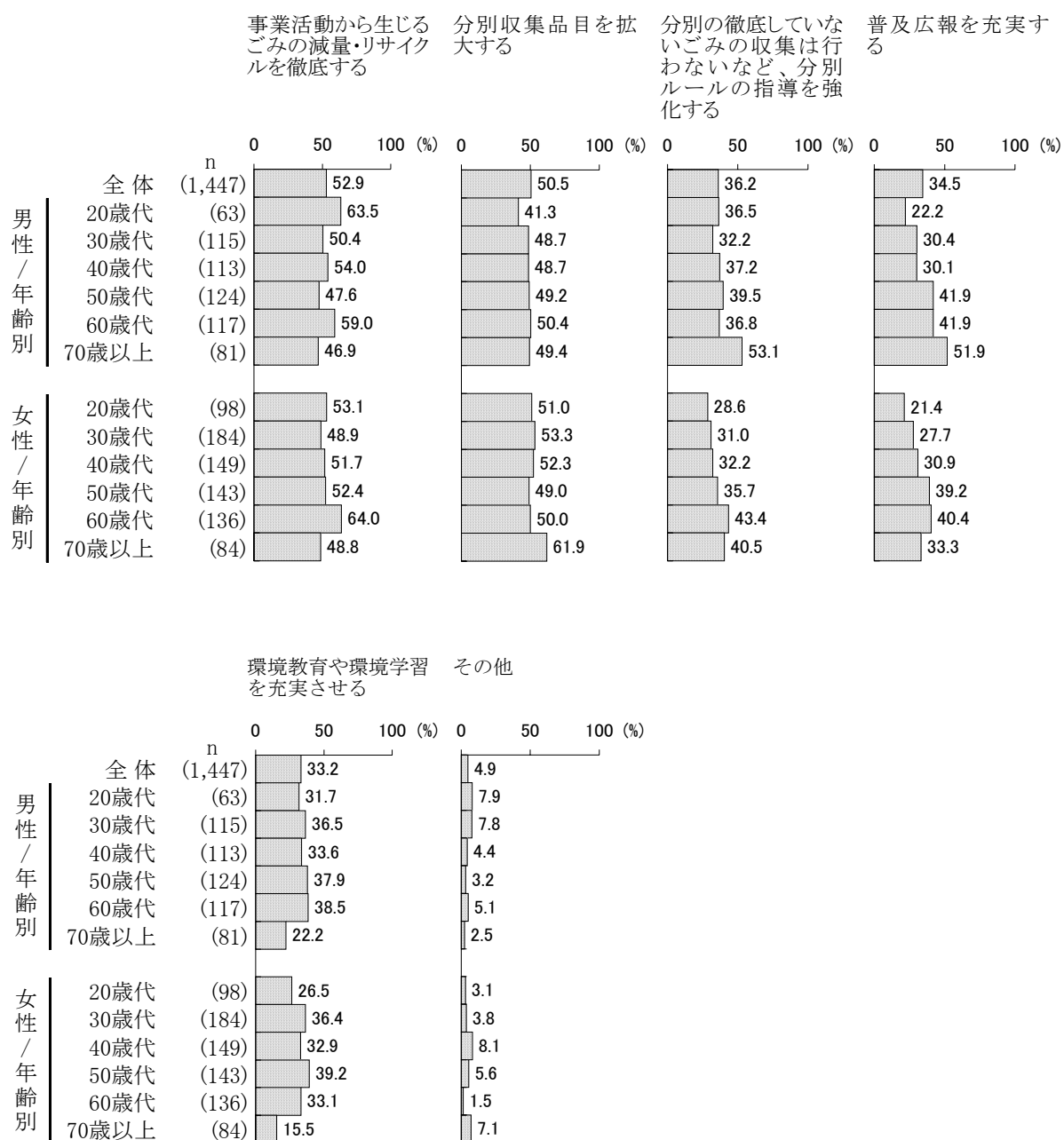
問9 今後、ごみの減量とリサイクルを進めていくために、市はどのような取組みを行うべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図表2-8 ごみの減量とリサイクルを進めていくために市が取組むべきこと



ごみの減量とリサイクルを進めていくために市が取組むべきことは、「事業活動から生じるごみの減量・リサイクルを徹底する」(52.9%)と「分別収集品目を拡大する」(50.5%)が5割を超えている。以下「分別の徹底していないごみの収集は行わないなど、分別ルールの指導を強化する」(36.2%)、「普及広報を充実する」(34.5%)、「環境教育や環境学習を充実させる」(33.2%)が3割台となっている。(図表2-8)

図表 2-9 ごみの減量とリサイクルを進めていくために市が取り組むべきこと (性／年齢別)



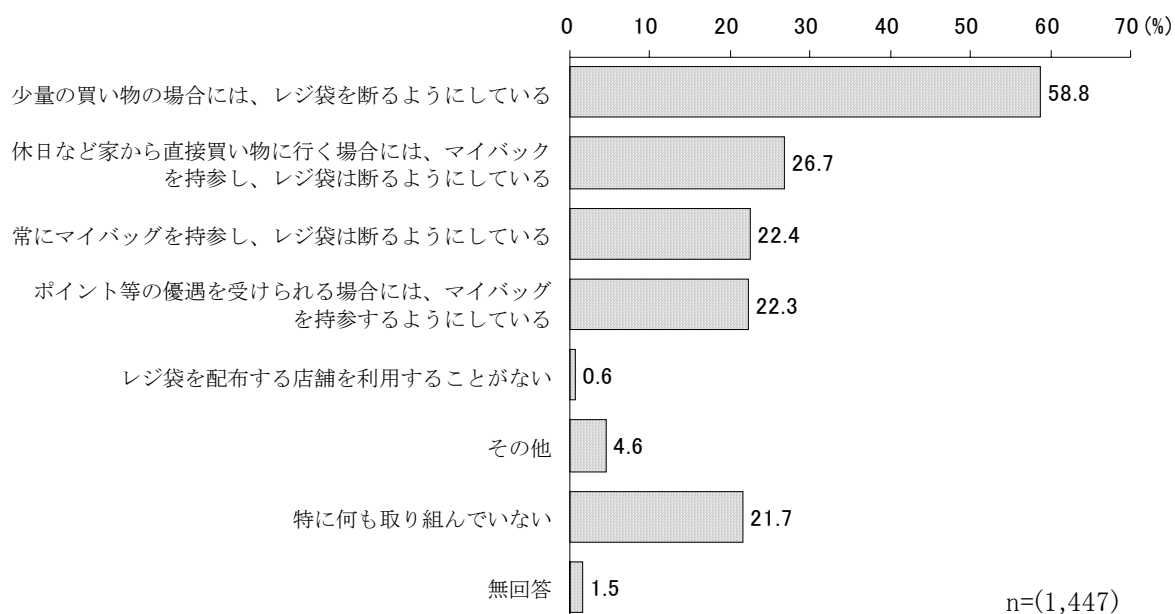
性／年齢別では、「事業活動から生じるごみの減量・リサイクルを徹底する」は、男性の20歳代が6割台前半、女性の60歳代が6割台半ばで多くなっている。「分別収集品目を拡大する」は、女性の70歳以上が6割台前半で多くなっている。「分別の徹底していないごみの収集は行わないなど、分別ルールを強化する」と「普及広報を充実する」は、男性の70歳以上が5割を超えている。(図表2-9)

2-5 レジ袋の受取り時に行っていること

◎ 「少量の買い物の場合には、レジ袋を断るようにしている」が58.8%

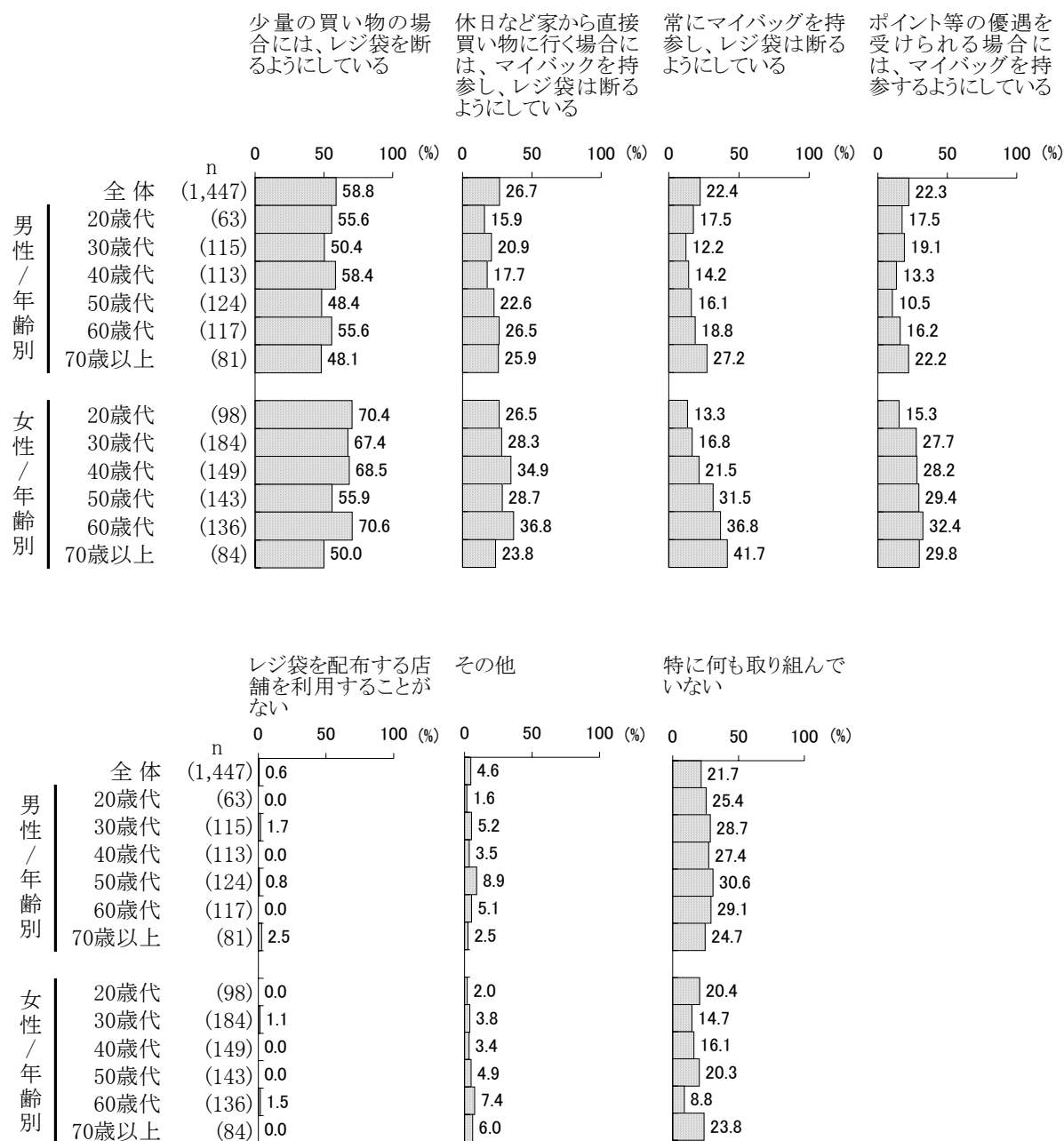
問 10 レジ袋の削減のために、その有料化や様々な優遇措置を導入するスーパー等がみられるようになってきました。
スーパーやコンビニエンスストアなどでのレジ袋の受取りについて、どのようなことを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 2-10 レジ袋の受取り時に行っていること



レジ袋の受取り時に行っていることは、「少量の買い物の場合には、レジ袋を断るようにしている」が58.8%で最も多くなっている。以下「休日など家から直接買い物に行く場合には、マイバックを持参し、レジ袋は断るようにしている」(26.7%)、「常にマイバッグを持参し、レジ袋は断るようにしている」(22.4%)、「ポイント等の優遇を受けられる場合には、マイバッグを持参するようにしている」(22.3%)が2割台と続いている。また、「特に何も取り組んでいない」(21.7%)も2割台前半となっている。(図表 2-10)

図表 2-11 レジ袋の受取り時に行っていること (性／年齢別)



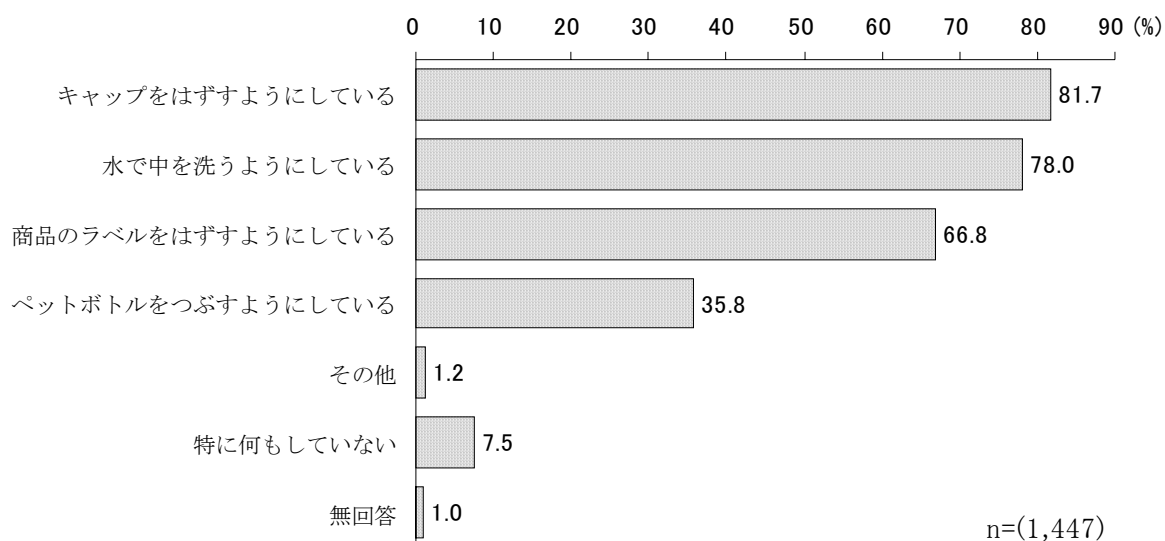
性／年齢別では、「少量の買い物の場合には、レジ袋を断るようになっている」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の20歳代～40歳代と60歳代が6割台後半～約7割となっている。「休日など家から直接買い物に行く場合には、マイバッグを持参し、レジ袋は断るようになっている」は、男性では、いずれの年齢層でも市全体を下回っている。女性では、40歳代と60歳代が3割台半ばで多くなっている。「常にマイバッグを持参し、レジ袋は断るようになっている」は、男女ともに70歳以上が最も多く、特に女性の70歳以上が4割台前半となっている。(図表 2-11)

2-6 ペットボトルの排出時に行っていること

- ◎ 「キャップをはずすようにしている」(81.7%)、「水で中を洗うようにしている」(78.0%) が約8割

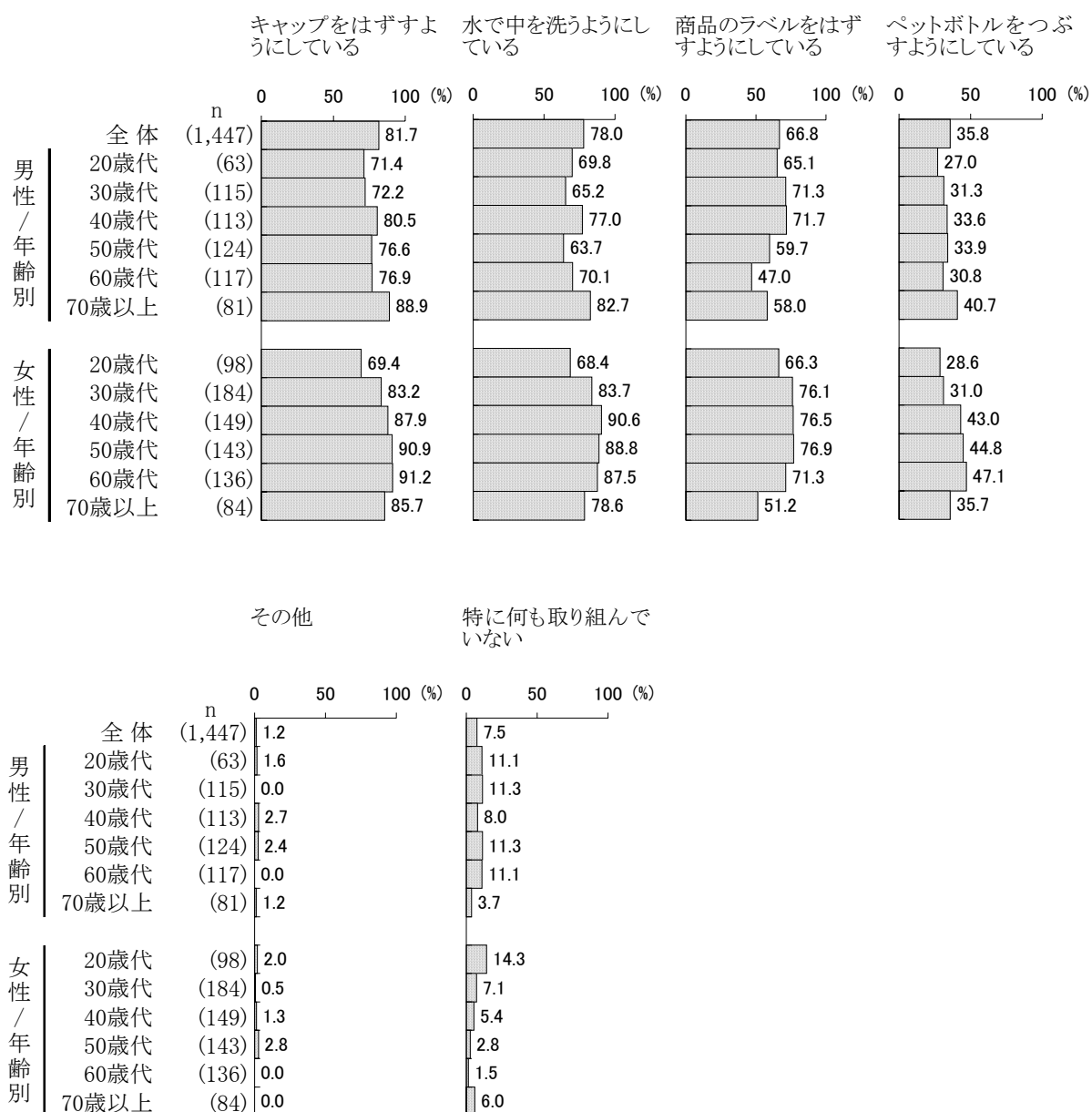
問 11 市では、ペットボトルを分別収集し、その資源化を行っています。
 ペットボトルを分別収集品として排出する場合、どのようなことを行っていますか。
 (あてはまるものすべてに○)

図表 2-12 ペットボトルの排出時に行っていること



ペットボトルの排出時に行っていることは、「キャップをはずすようにしている」(81.7%)、「水で中を洗うようにしている」(78.0%) が約8割で多くなっている。以下「商品のラベルをはずすようにしている」(66.8%)、「ペットボトルをつぶすようにしている」(35.8%) と続いている。(図表 2-12)

図表 2-13 ペットボトルの排出時に行っていること (性／年齢別)



性／年齢別では、「キャップをはずすようにしている」は、男性の70歳以上、女性の40歳代～60歳代が9割前後と多くなっている。「水で中を洗うようにしている」は、男性の40歳代と70歳以上で8割前後、女性の40歳代～60歳代では9割前後と多くなっている。(図表 2-13)

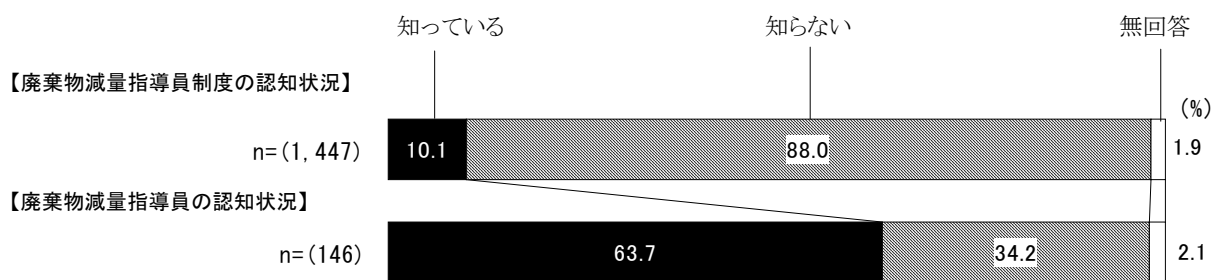
2-7 廃棄物減量指導員制度・廃棄物減量指導員の認知状況

◎ 廃棄物減量指導員制度を「知っている」は 10.1%で認知度はまだ低い

問 12 市では、ごみの減量・リサイクルを地域ぐるみで推進するため、廃棄物減量指導員制度を実施しており、指導員は、町内会・自治会等から推薦された方を市長が委嘱し、ごみ減量の普及啓発や排出指導などの活動を行っています。
廃棄物減量指導員制度を知っていますか。(○は1つ)

(問 12 で、廃棄物減量指導員制度を「1. 知っている」と答えた方にうかがいます。)
問 12-1 お住まいの地域の廃棄物減量指導員を知っていますか。(○は1つ)

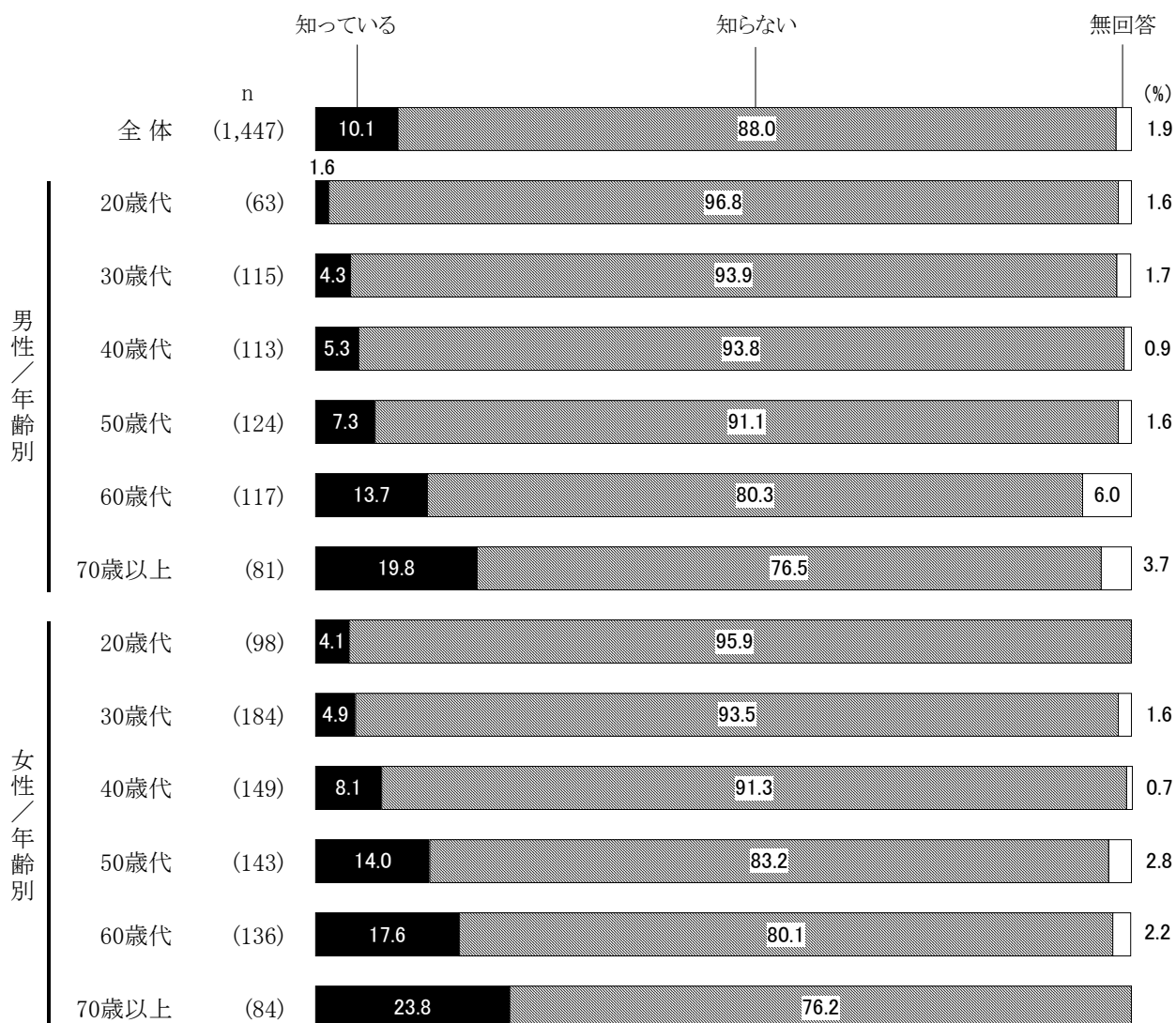
図表 2-14 廃棄物減量指導員制度・廃棄物減量指導員の認知状況



廃棄物減量指導員制度を「知っている」人は 10.1%、「知らない」人は 88.0%で、認知度は低くなっている。

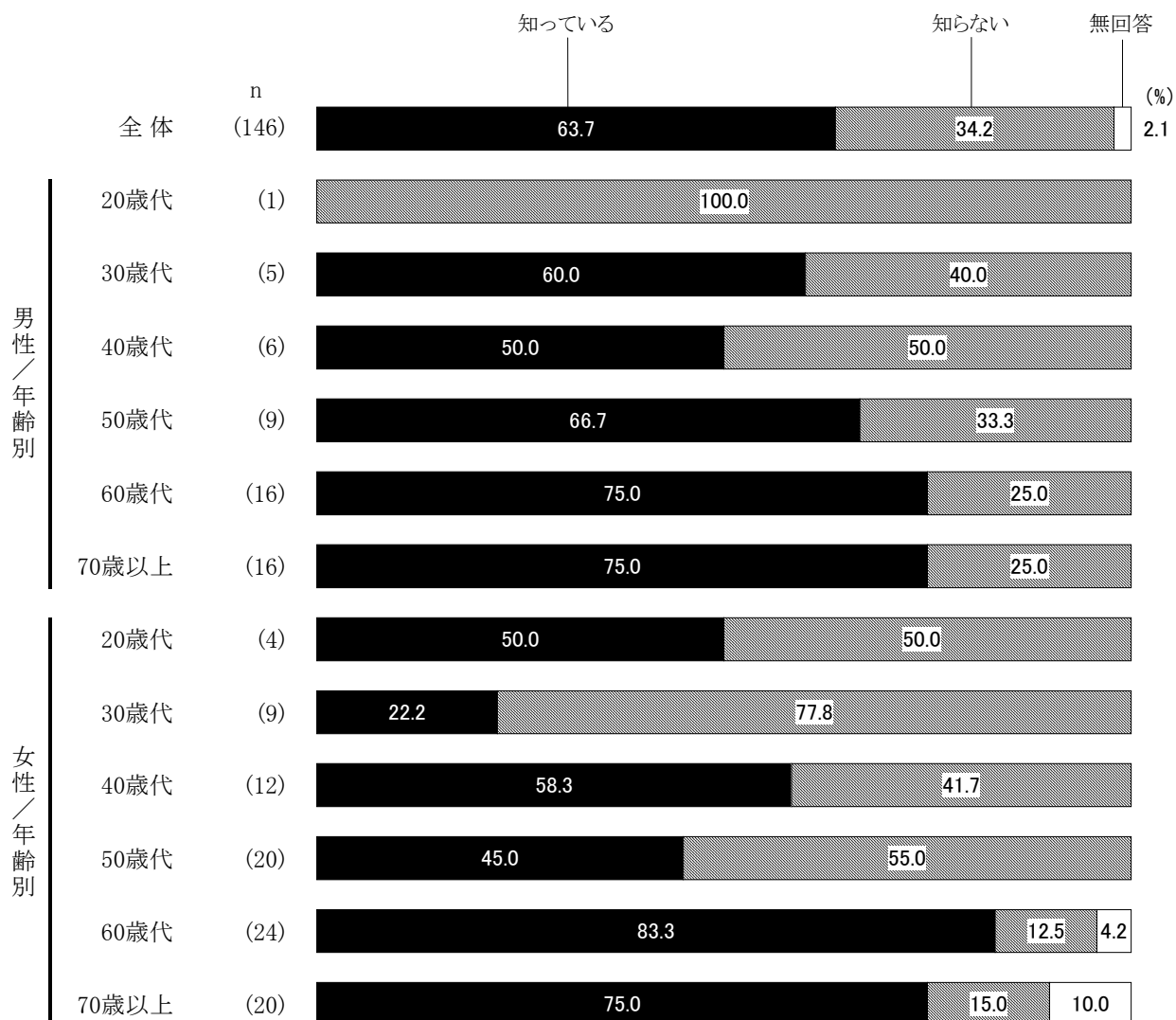
制度を知っている人のうち、地域の廃棄物減量指導員を「知っている」人は 63.7%、「知らない」人は 34.2%となっている。(図表 2-14)

図表 2-15 廃棄物減量指導員制度の認知状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、「知っている」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、70歳以上で2割前後となっている。「知らない」は、いずれの年齢層でも「知っている」の割合を大きく上回っている。(図表 2-15)

図表 2-16 廃棄物減量指導員の認知状況 (性／年齢別)



※性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 2-16)